

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000227		
法人名	社会福祉法人 北叡会 あるての杜 グループホームひまわりの郷		
事業所名	グループホームひまわりの郷(ぬくぬく)		
所在地	江別市上江別西町13-3		
自己評価作成日	平成31年2月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=0191000181-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成31年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中、利用者が主体的に自己決定を行い、目的などを持って安全に暮らして頂けるよう支援に努めている。
住宅地の中にあることから、地域の方々との繋がりを大切に行事に参加し又運営推進会議や施設行事に参加して頂くことで信頼関係を築けるよう努めている。
医療面においては、提携医療機関との密な情報交換、定期検査に加え週一回の訪問看護を実施することにより、体調不良時の相談や速やかな受診対応が出来る体制が整っている。日ごろよりミーティング、カンファレンスや研修を通して職員のスキル向上を行い、ご利用者やご家族、外部の方に満足して頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひまわりの郷」は、JR駅から徒歩で10分ほどの静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。近隣にある2か所の公園は、日常的に散歩をしている馴染みの環境になっている。平成8年に江別市で初めて開設した当事業所は理念の精神を大切に運営し、22年が経過している。建物2階の共用空間には大きな窓から光が差し込み居心地がよく、居間には利用者と一緒に制作したカレンダーや季節の貼り絵などが飾ってあり温もりのある家庭的な雰囲気になっている。利用者は市内にある同法人事業所の夏祭りに参加し、保育園児の遊戯や大学生のよさこい踊りなどを観賞して地域住民と交流している。また法人施設「夢あかり」の夏祭りにも参加している。介護学校の実習生や法人運営の就労支援事業所からの派遣を受け入れるなど地域との関わりを進めている。管理者は職員が運営に自主的に参加ができるよう職員間で業務マニュアルの作成を勧めたり、学ぶ機会を多く取り入れて職員を気遣いながら働く環境を整備している。職員と共に利用者の言動を制止しない、自立に向けたケアを熱心に取り組み個別の意向に可能な限り対応している。事業所の畑づくりや収穫を利用者と一緒に行い、散歩中に栗拾いをして栗ご飯を楽しんでいる。職員は優しく語りかけて利用者が選べるように笑顔で接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げている。職員は、常に理念にそって入居者様に接するよう努めている。ミーティングやカンファレンスにて、個々のサービスの振り返りを行う時間を設けている。	地域密着型サービスの視点を盛り込んだケア理念を掲げ、会議の際に振り返りを行っている。職員は名札を付ける時に裏に記載してある理念を読んだり、ケアの中で理念の文言を見て確認し、日々意識して利用者に対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加(回覧板、資源回収)など地域との繋がりを大切にしている。運営推進会議やボランティアの受け入れを通して、地域の方にも参加して頂き、地域との交流や意見交換の機会を設けている。	散歩や買い物で地域住民と触れ合い、事業所の行事に住民が参加することもある。ボランティアの来訪で琴やオカリナ演奏で歌ったり、レクリエーションにボランティアも一緒に参加して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や面会時等を利用し、ご家族様や地域の方々へ認知症への取り組みを報告しご意見を頂くよう努めており又、認知症への理解を深められるよう、入居者様の状態、対応方法などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の運営状況や発生した事故・その後の対応策、日常の様子などをスライドで紹介、毎回ご報告させて頂くと同時にご家族様、包括支援センターからの意見などをお聞きし、サービスの向上につなげていけるよう努めている。	会議では行事、研修、外部評価、感染症のほか、認知症ケアを重点的に取りあげている。事業所での対応方法を報告する中で地域に還元できるように工夫している。会議案内にテーマを記載して全家族に送り、来訪時に参加を呼びかけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、空き状況・入居者状況を書面にて直接持参しており、当グループホームを理解頂くことにより、報告・連絡・相談をしやすい関係作りを努めている。また、市からアンケートにもお答えするよう努めている。	市のアンケートに協力したり、書類提出時には市役所に出かけて直接手渡すように対応している。生活保護担当者に制度の利用で相談する事もある。その都度連絡を密にし、利用者への訪問時には担当者として情報を交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわれていないが、外部、内部研修に参加し、身体拘束の定義を理解し、ミーティング内での勉強会を行い、職員全員で身体拘束につながっていく恐れはないかどうか、話し合っている。又、職員全員が気兼ねなく意見や疑問を言える環境を整えていく。運営推進会議の場においても身体拘束について当グループホームの方針、対応について説明を行っている。	本部で身体拘束等適正化指針を作成し、委員会を設置している。それらをもとに事業所で研修会やミーティングを行い、利用者の言動を制止しない言葉遣いや対応、また身体拘束禁止の具体的な行為も確認し、拘束のないケアを行っている。日中は玄関を開錠し、見守りの中で丁寧に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修の他、カンファレンス・ミーティング内において、虐待や不適切なケア(発言や行動)に繋がらない為の話し合いを設け理解を深めている。また、職員同士が常に声を掛け合える環境を整え、身体的な虐待は勿論の事、接遇や介助方法などの振り返り、検討を行い、虐待に繋がらないように心掛けている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加する機会はなかったが、制度を利用されている入居者様もあり、後見人と連絡を密にし権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時は十分な話し合いを行える時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消できるように努めている。入居中に不明な点や、わからない事があった際には、その都度説明させて頂き、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時や家族アンケートの実施を行い、ご家族様の思い、意見をお聞きしている。寄せられた意見に対しては速やかに臨時のミーティングを開催し、検討させて頂く。又、自部署のみならず法人として対応を検討していく体制を整えている。研修を通じ、利用者様、ご家族様からの意見、要望をお聞きしやすい雰囲気を作ることに努めている。	家族の来訪時にケアの対応や介護計画について話し合っている。担当職員が利用者ごとに便りを作成し普段の暮らしを伝えている。意見や要望などは別用紙に記載し個人記録に綴っている。今後も職員の気づきも含めて家族が気になることを記入し、個別の思いを把握したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、いつでも意見や質問ができるよう環境作りに努めている。又、ミーティング等を通して、職員から意見、提案を聞き、反映していけるよう努めている。	毎月合同のミーティング後にカンファレンスを行い、業務では職員間で業務マニュアルを作成し、自主的に取り組む方法を検討している。管理者は個人面談や業務の中で職員の要望などを聞き、職員を気遣いながら働く環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況、能力を把握し、評価を行うと同時に面談を行い、本人の思い伺い、目標を持って勤務が出来る就業環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内部で開催される介護力向上研修および本人に合った外部研修への参加を勧めている。また、参加した研修内容については、ミーティングにて報告する事で職員全体におけるケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会を通じて、意見交流や情報交換を行える機会を設けている。また、月に1回市内の各グループホームの管理者が集まる会に参加し、他施設への相談、情報交換の機会を設けサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関や他施設の情報を確認し、ご本人様に来るだけホームへお越し頂き、思いや要望を聞かせて頂くとともに十分なお説明により、安心して頂けるように努めている。また、入居してからも不安や混乱が起きた場合においても事前にご本人様の情報を職員全員へ周知を行うことで寄り添い、お話しをお聞きするなどし安心、快適に過ごして頂けるよう支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から不安、要望や思い等をお聞きし安心して入居できるよう努めているが、入居後においてもご家族様の利用に対する思いをお話して頂ける様、面会時や電話でご利用者の様子をお伝えするなど話しやすい環境や時間作りにも努めている。生活記録表にご家族様からの要望や思いを記録することにより職員全員に情報の共有を図りより関係を築けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご入居者様、関係機関からの情報を総合的に判断し、どのような支援を最優先すべきか見極め支援を行っている。サービス利用の際、入居者様ご本人や家族の思いに考慮し、利用に対する気持ちのずれが生じないよう確認すると同時にご希望により他のサービスを利用できるよう行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、入居者様それぞれの意見、思い、出来ることを引き出しながら共に生活するという視点で支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時において、入居者様の状況をご説明させて頂き、入居者様の生活について一緒に考えて頂いている。また、誕生会の参加、外出や外泊ができるようお声を掛けさせて頂き、ご家族様との絆を大切に出来る為の必要な支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の暮らしの中において、楽しく過ごされた過去のお話に合わせて接するように努めている。入居者様ご本人やご家族様からの希望があった際には、外出等が行えるよう支援している。また、知人等が訪ねて来られた際には、ゆっくりと過ごして頂く事ができるよう、お茶やお菓子を出すなど配慮している。	長年利用している訪問美容室の人とは馴染みである。家族とお墓参りや理容室に行き、自宅で誕生日をお祝いする方もいる。利用者の希望に沿って同行し、洋品店や薬局で選んでもらったり、好きなパン、アイス、大福餅を買うなど本人の関心ごとに対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃の入居者様の暮らしぶりや他入居者様との関係を職員同士でミーティング、日々の申し送りなどにより状況を把握し、座席に配慮したり、率先して職員が仲介をしながら入居者様同士が関わり合えるよう努めている。また、入居者様の能力や特技を生かしながら関わり合えたり、助け合えるような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了が決まった時点より不安や心配事については、いつでも相談して頂けるようお声をおかけしたり、いつでも連絡して頂ける体制を整えている。また、関係機関との連携体制も整えている。医療機関等と連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握した上で、入居者様ご本人との会話や表情等の中から希望や意見を汲みとれるように努めている。また、カンファレンスや日常生活を通して職員間で情報を共有することにより適切なケアを行えるよう努めている。意思疎通が困難な方に関しては、ご家族様から情報提供を頂き、その人らしい暮らしを行えるように努めている。	会話の中や表情から意向を汲み取り、希望には可能なかぎり対応している。入居時にフェイスシートを作成し病気や家族構成などの変更を主に年に1回更新している。普段の会話などから本人の暮らしの習慣、趣味、嗜好などを把握しているが記録での共有が少ないように見受けられる。	本人の視点から意向を汲みとる方法として、センター方式の「B-3」シートの活用で会話などから具体的に引き出して記入し、介護計画につなげる工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様ご本人との日々のコミュニケーションや、ご家族様の面会時に聞き取り、把握に努めている。サービス利用の経過についてはご家族様の了承を得て関係機関に問い合わせし、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、一人ひとりに合った活動や一日の過ごし方等について、ミーティング、カンファレンス等の場で話し合い、有意義な過ごし方をケアプランに載せチームケアとして取り組み把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしぶりや、入居者様との関わりから要望を聞き出せるよう努め、ミーティングやカンファレンス等、話し合いを行い介護計画を作成している。また、意思疎通が困難な方に関しては、面会時にご家族様にご意見やご要望を聞かせて頂き、介護計画へ反映している。状況に応じて、随時介護計画を見直し入居者様ご本人に合った支援を行うよう努めている。	担当職員のモニタリングをもとに計画作成担当者が課題分析表を作成している。カンファレンスで意見を交換し3か月ごとに介護計画を作成している。今後も介護計画の目標に沿って日々の記録を行い、支援内容の中でいつもと違う利用者の様子も記入し、モニタリングにつなげる記録方法を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にて、介護計画に基づいたケアプランの実施やその反応を記載し、職員間で情報の共有を図り今後のより良いケアへと繋げている。状況に応じて、ミーティングやカンファレンスを開催し介護計画の見直し、変更を行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の心身状態に合わせた個別ケアについて、多職種とのケース検討、ミーティングやカンファレンス時において、話し合う時間を設け、柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流やボランティアの方々との訪問など外部の方との交流を行うことで、なじみの地域との繋がりを持ち続けられるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関には、定期的に健康診断を実施している。また必要があれば受診を行っているが、ご家族様、入居者様ご本人からの希望があれば、かかりつけ医の受診を行うなど関係を持ち続けている。	協力医療機関の通院を定期的に支援している。協力医の診療情報提供書で専門的な病院の受診を事業所に対応しているが、内容によっては家族の同席もある。利用者ごとに記録し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員、週一回の訪問看護師との連携、連絡体制を整え、安定した健康管理を行えるよう努めている。緊急時の連絡体制を整備し、急変時にも適切な助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護添書を作成し、入院先の医療機関と緊密な連携をとっている。入院中の状態確認を定期的に行い、状態把握に努め、医師からの病状説明の際は、ご家族様と共に同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居の事前説明の際に重度化に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂けるよう努めている。体調や状態に変化があった際には、ご家族様へ連絡、説明を行い、医療機関と連携して対応している。終末期に関してはご家族様の意向を確認し希望があれば施設での看取りを行う体制も整えている。	利用開始時に重度化や看取りの対応を説明し同意を得ている。状態の変化時には主治医の判断で方針を話し合い、看取りの希望に沿って看取り介護の同意書を交わしている。法人研修などに参加して看取りを学び、看取り後の報告会で利用者の思いに沿って振り返りを行い共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時については、連絡体制を整えており、周知している。また、消防署の研修及び内部研修に参加しAEDの使用方法など含め全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力頂き、6月に夜間想定訓練を実施し避難経路や連絡体制、災害時の対応方法等を全職員で確認している。また、運営推進会議と合わせ、地域の方やご家族にも参加して頂き災害時には協力体制を仰いでいる。	運営推進会議と同日に消防設備会社の協力で夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の参加者には誘導後の見守りで協力を得ている。備蓄品は冬期も含めて整備中で、地震等の対応についてはさらに検討する方針としている。	非常災害時の各マニュアルや必要な書類などの整備に期待したい。また地震を想定し各ケア場面で利用者ごとの対応を話し合い、マニュアルに追加し定期的な確認も期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士声を掛け合い、入居者様に対しての言葉遣いやマナー、声の大きさやトーンを注意し合えるよう努めている。また、接遇マナー研修を年数回開催し、職員全員が入居者様それぞれの、その人らしい暮らしができるよう、支援している。	法人で接遇の研修をしており接し方のポイントを習得している。言葉かけのトーンに注意を払い優しく話しかけている。個人記録はリビングで記入しているが離れる場合は伏せている。個人情報職員室で人目につかないよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が入居者様本位の姿勢をとり、入居者様の根本にある気持ちを聞き出せるよう努め、自己決定を優先している。また、意思決定が困難な方に関しても、出来る限り選択できるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の行いたい事をその都度お聞きし、話し合いながら可能な限り、実現できるように努めている。また、一人ひとりのペースを守る事を理念として取り組んでいる。職員間で情報の共有を行うことで全職員がご利用者の希望に沿った支援を行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、できるだけ入居者様ご本人に行って頂けるよう援助している。ご自身では困難な方は、職員が毎朝ご本人の希望に沿った支度をお手伝いさせて頂いている。訪問理美容を利用し、その方の希望に沿った形での援助を行っている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器拭き等出来る限り、入居者様にも職員と一緒に調理活動を行って頂けるよう支援している。肉禁、麺禁など要望に合わせて選択することが可能となっていることから入居者様ご本人のお好きな食事メニューを提供できる環境となっている。行事では季節に合った物、誕生日の際には、入居者様ご本人の食べたい物、お好きな料理を出来る限り提供している。	法人から調理済みの主菜や副菜が搬入されているが、主食と汁物は事業所で用意している。誕生日はオードブルや赤飯にケーキでお祝いをしている。散歩中に栗拾いをして栗ご飯をしたり、事業所の畑の収穫物も食材として調理されている。職員と一緒に好み焼きを作ったり、外出先でカフェに立ち寄り、個別の外食で回転すしなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューが提供されており、栄養バランスは保たれている。十分な栄養、水分の確保がご自分で困難な方には、職員が付き添い必要があれば介助を行い、バランス良く栄養を摂取して頂けるよう支援を行っている。食事量や水分量を記録することでご利用者に合った栄養量、水分量の管理を行っている。必要であれば管理栄養士や医療機関と連携を行える体制を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂けるよう、声かけしている。できる限り入居者様ご本人に行って頂き、最終確認をさせて頂いている。義歯を使用している方は、夜間帯にできる限りつけおき洗浄をさせて頂いている。口腔ケアを行うことにより誤嚥性肺炎の予防にも努めている。義歯の調整や口腔ケア、定期検査など必要に応じ、訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本ケア(水分、運動、食事)を心がけ、トイレでの排泄ができるよう支援している。又、可能な限り日中はおむつを使用せずトイレでの排泄ができるようすることで入居者様の人格の尊重とプライバシーの確保ができるよう努めている。	排泄面で自立している利用者もいるが、全員の排泄記録を付け、利用者ごとの排泄パターンを把握し、失敗がないよう早めにトイレ誘導をしている。2人介助の必要な利用者も、全員がトイレでの排泄をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確保できるよう支援すると共に、便秘傾向の方に関しては、歩行等の運動を行う機会を持てるよう支援することで出来るだけ下剤に頼らない基本ケア(水分、運動、食事)を展開している。また、日常的に乳製品やオリゴ糖などの排便を誘発するものを提供している。看護職員が排便状況を把握し必要があれば対応を行い穏やかな生活を過ごせるよう支援を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望に沿い、入浴表を作成しているが、その日の体調や入居者様ご本人の希望により、曜日や時間帯の変更を行うなど、柔軟な対応に努めている。入浴が困難な場合には、清拭や足浴を行って頂き、身体の清潔を保つことに努めている。最低でも週2回の入浴ができるよう努める。	午後や場合によっては午前にも入浴が可能で職員と昔話や若いころの話をしながら、のんびりと湯船に浸かっている。足が上がらない場合は足浴をしながらシャワー浴になる事もある。希望があれば同性介助に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご希望に合わせて、休息時間を設けられるよう、対応している。また、夜間帯においては、居室の明るさや騒音、温度等にも配慮し、安眠できるよう努めている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容や用法、用量、副作用が明記された用紙をファイルに綴じ、全職員が確認できるようにしている。また、状態が変化した際は、訪問看護師へ相談をし調整を行い、早期受診できるよう医療機関との連携に努めている。また医療機関へ相談を行い減薬調整ができるよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動や歌という共通の要素を核とし、入居者様ごとの生活歴(職歴・趣味など)を基に役割作りに努めている。女性の入居者様が多く、盛り付け、食器拭き、洗濯物たたみといった家事を毎日の役割としてご利用者から声を発して頂けている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぬくぬく)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期には、近道を散歩したり外出を支援している。また、希望時には買い物や散歩を行えるよう支援に努めている。運営推進会議においても、希望や助言を頂くよう努めている。また、個別外出の計画もあり、入居者様ご本人・ご家族様のご希望に沿う行事も計画している。可能なご家族には、できる限り外出ができるよう、声を掛けさせて頂いている。	散歩で公園や近くのコンビニへ行っている。小学校の合唱団の歌を聞いたり、ドライブで花見や紅葉見物をしている。個別の買い物で薬局で歯磨き粉、衣料品店でパジャマなどを選んでいる。家族が利用者を迎えに来て墓参りや、誕生日に自宅で過ごしている。冬期は受診時に車両の窓から景色や街並みを眺めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の際や買い物活動の際に関しては、ご家族様や入居者様ご本人の希望がある際は、お小遣いを所持できるよう環境を整え、使用していけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に、ご家族様へ電話をかけたたり、もらったりすることで安心して暮らして頂いている。また手紙でのやりとりができるよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営推進会議やアンケートなどでご家族様からも意見を頂き、検討する様努めている。また、視力が低下している方には特に配慮し分かりやすく視界に入るよう、ドアなどに場所や名前を記載している。装飾に関しては、季節感のあるものを入居者様と作成し、廊下等に飾り居心地良く過ごせるよう配慮している。	明るい共有空間に観葉植物や季節の飾り、利用者の手作りカレンダーを飾っている。加湿器やエアコンを利用し適切な空調管理をしている。見守りしやすい台所から利用者の様子が窺える。ダイニングでは音楽体操や風船バレー、編み物、塗り絵、童謡を歌うなどの活動をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に関しては、広さはないが、自由に使用して頂けるよう、日頃から入居者様やご家族様にお話している。また、居室にいる際は、無理に出て頂くような声は掛けないよう注意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等に関しては、使い慣れた物を使用して頂けるよう声を掛けている。また、自室内は、入居者様ご本人の塗り絵や作品、写真、誕生日カードなどを飾らせて頂き、居心地よく過ごせるよう、支援している。	自宅から持ってきたテレビ、ラジオ、机と椅子、加湿器、化粧品を置き、壁に家族の写真や掛け時計、利用者の作品が掲示されている。どの部屋も個性がある住みやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具等に関しては、使い慣れた物を使用して頂けるよう声を掛けている。また、自室内は、ご自身の塗り絵や作品、写真、誕生日カードなどを飾らせて頂き、居心地よく過ごせるよう、支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000227		
法人名	社会福祉法人 北叡会 あるての杜 グループホームひまわりの郷		
事業所名	グループホームひまわりの郷(ぼかぼか)		
所在地	江別市上江別西町13-3		
自己評価作成日	平成31年2月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中、利用者が主体的に自己決定を行い、目的などを持って安全に暮らして頂けるよう支援に努めている。
住宅地の中にあることから、地域の方々との繋がりを大切に行事に参加し又運営推進会議や施設行事に参加して頂くことで信頼関係を築けるよう努めている。
医療面においては、提携医療機関との密な情報交換、定期検査に加え週一回の訪問看護を実施することにより、体調不良時の相談や速やかな受診対応が出来る体制が整っている。日ごろよりミーティング、カンファレンスや研修を通して職員のスキル向上を行い、ご利用者やご家族、外部の方に満足して頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0191000181-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げている。職員は、常に理念にそって入居者様に接するよう努めている。ミーティングやカンファレンスにて、個々のサービスの振り返りを行う時間を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加(回覧板、資源回収)など地域との繋がりを大切にしている。運営推進会議やボランティアの受け入れを通して、地域の方にも参加して頂き、地域との交流や意見交換の機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や面会時等を利用し、ご家族様や地域の方々へ認知症への取り組みを報告しご意見を頂くよう努めており又、認知症への理解を深められるよう、入居者様の状態、対応方法などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の運営状況や発生した事故・その後の対応策、日常の様子などをスライドでご紹介、毎回ご報告させて頂くと同時にご家族様、包括支援センターからの意見などをお聞きし、サービスの向上につなげていけるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、空き状況・入居者状況を書面にて直接持参しており、当グループホームを理解して頂くことにより、報告・連絡・相談をしやすい関係作りを努めている。また、市からアンケートにもお答えするよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわれていないが、外部、内部研修に参加し、身体拘束の定義を理解し、ミーティング内での勉強会を行い、職員全員で身体拘束につながっていく恐れはないかどうか、話し合っている。又、職員全員が気兼ねなく意見や疑問を言える環境を整えていく。運営推進会議の場においても身体拘束について当グループホームの方針、対応について説明を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修の他、カンファレンス・ミーティング内において、虐待や不適切なケア(発言や行動)に繋がらない為の話し合いを設け理解を深めている。また、職員同士が常に声を掛け合える環境を整え、身体的な虐待は勿論の事、接遇や介助方法などの振り返り、検討を行い、虐待に繋がらないように心掛けている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加する機会はなかったが、制度を利用されている入居者様もあり、後見人と連絡を密にし権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時は十分な話し合いを行える時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消できるように努めている。入居中に不明な点や、わからない事があった際には、その都度説明させて頂き、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時や家族アンケートの実施を行い、ご家族様の思い、意見をお聞きしている。寄せられた意見に対しては速やかに臨時のミーティングを開催し、検討させて頂く。又、自部署のみならず法人として対応を検討していく体制を整えている。研修を通じ、利用者様、ご家族様からの意見、要望をお聞きしやすい雰囲気を作ることに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを大切に、いつでも意見や質問ができるよう環境作りに努めている。又、ミーティング等を通して、職員から意見、提案を聞き、反映していけるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況、能力を把握し、評価を行うと同時に面談を行い、本人の思い伺い、目標を持って勤務が出来る就業環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内部で開催される介護力向上研修および本人に合った外部研修への参加を勧めている。また、参加した研修内容については、ミーティングにて報告する事で職員全体におけるケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会を通じて、意見交流や情報交換を行える機会を設けている。また、月に1回市内の各グループホームの管理者が集まる会に参加し、他施設への相談、情報交換の機会を設けサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関や他施設の情報を確認し、ご本人様に来るだけホームへお越し頂き、思いや要望を聞かせて頂くとともに十分なお説明により、安心して頂けるように努めている。また、入居してからも不安や混乱が起きた場合においても事前にご本人様の情報を職員全員へ周知を行うことで寄り添い、お話しをお聞きするなどし安心、快適に過ごして頂けるよう支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から不安、要望や思い等をお聞きし安心して入居できるよう努めているが、入居後においてもご家族様の利用に対する思いをお話して頂ける様、面会時や電話でご利用者の様子をお伝えするなど話しやすい環境や時間作りにも努めている。生活記録表にご家族様からの要望や思いを記録することにより職員全員に情報の共有を図りより関係を築けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご入居者様、関係機関からの情報を総合的に判断し、どのような支援を最優先すべきか見極め支援を行っている。サービス利用の際、入居者様ご本人や家族の思いに考慮し、利用に対する気持ちのずれが生じないよう確認すると同時にご希望により他のサービスを利用できるよう行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、入居者様それぞれの意見、思い、出来ることを引き出しながら共に生活するという視点で支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時において、入居者様の状況をご説明させて頂き、入居者様の生活について一緒に考えて頂いている。また、誕生会の参加、外出や外泊ができるようお声を掛けさせて頂き、ご家族様との絆を大切に出来る為の必要な支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の暮らしの中において、楽しく過ごされた過去のお話に合わせて接するように努めている。入居者様ご本人やご家族様からの希望があった際には、外出等が行えるよう支援している。また、知人等が訪ねて来られた際には、ゆっくりと過ごして頂く事ができるよう、お茶やお菓子を出すなど配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃の入居者様の暮らしぶりや他入居者様との関係を職員同士でミーティング、日々の申し送りなどにより状況を把握し、座席に配慮したり、率先して職員が仲介をしながら入居者様同士が関わり合えるよう努めている。また、入居者様の能力や特技を生かしながら関わり合えたり、助け合えるような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了が決まった時点より不安や心配事については、いつでも相談して頂けるようお声をおかけしたり、いつでも連絡して頂ける体制を整えている。また、関係機関との連携体制も整えている。医療機関等と連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握した上で、入居者様ご本人との会話や表情等の中から希望や意見を汲みとれるように努めている。また、カンファレンスや日常生活を通して職員間で情報を共有することにより適切なケアを行えるよう努めている。意思疎通が困難な方に関しては、ご家族様から情報提供を頂き、その人らしい暮らしを行えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様ご本人との日々のコミュニケーションや、ご家族様の面会時に聞き取り、把握に努めている。サービス利用の経過についてはご家族様の了承を得て関係機関に問い合わせし、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、一人ひとりに合った活動や一日の過ごし方等について、ミーティング、カンファレンス等の場で話し合い、有意義な過ごし方をケアプランに載せチームケアとして取り組み把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしぶりや、入居者様との関わりから要望を聞き出せるよう努め、ミーティングやカンファレンス等、話し合いを行い介護計画を作成している。また、意思疎通が困難な方に関しては、面会時にご家族様にご意見やご要望を聞かせて頂き、介護計画へ反映している。状況に応じて、随時介護計画を見直し入居者様ご本人に合った支援を行うよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にて、介護計画に基づいたケアプランの実施やその反応を記載し、職員間で情報の共有を図り今後のより良いケアへと繋げている。状況に応じて、ミーティングやカンファレンスを開催し介護計画の見直し、変更を行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の心身状態に合わせた個別ケアについて、多職種とのケース検討、ミーティングやカンファレンス時において、話し合う時間を設け、柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流やボランティアの方々の訪問など外部の方との交流を行うことで、なじみの地域との繋がりを持ち続けられるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関には、定期的に健康診断を実施している。また必要があれば受診を行っているが、ご家族様、入居者様ご本人からの希望があれば、かかりつけ医の受診を行うなど関係を持ち続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員、週一回の訪問看護師との連携、連絡体制を整え、安定した健康管理を行えるよう努めている。緊急時の連絡体制を整備し、急変時にも適切な助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護添書を作成し、入院先の医療機関と緊密な連携をとっている。入院中の状態確認を定期的に行い、状態把握に努め、医師からの病状説明の際は、ご家族様と共に同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居の事前説明の際に重度化に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂けるよう努めている。体調や状態に変化があった際には、ご家族様へ連絡、説明を行い、医療機関と連携して対応している。終末期に関してはご家族様の意向を確認し希望があれば施設での看取りを行う体制も整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時については、連絡体制を整えており、周知している。また、消防署の研修及び内部研修に参加しAEDの使用方法など含め全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力頂き、6月に夜間想定訓練を実施し避難経路や連絡体制、災害時の対応方法等を全職員で確認している。また、運営推進会議と合わせ、地域の方やご家族にも参加して頂き災害時には協力体制を仰いでいる。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士声を掛け合い、入居者様に対しての言葉遣いやマナー、声の大きさやトーンを注意し合えるよう努めている。また、接遇マナー研修を年数回開催し、職員全員が入居者様それぞれの、その人らしい暮らしができるよう、支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が入居者様本位の姿勢をとり、入居者様の根本にある気持ちを聞き出せるよう努め、自己決定を優先している。また、意思決定が困難な方に関しても、出来る限り選択できるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の行いたい事をその都度お聞きし、話し合いながら可能な限り、実現できるように努めている。また、一人ひとりのペースを守る事を理念として取り組んでいる。職員間で情報の共有を行うことで全職員がご利用者の希望に沿った支援を行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、できるだけ入居者様ご本人に行って頂けるよう援助している。ご自身では困難な方は、職員が毎朝ご本人の希望に沿った支度をお手伝いさせて頂いている。訪問理美容を利用し、その方の希望に沿った形での援助を行っている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器拭き等出来る限り、入居者様にも職員と一緒に調理活動を行って頂けるよう支援している。肉禁、麺禁など要望に合わせて選択することが可能となっていることから入居者様ご本人のお好きな食事メニューを提供できる環境となっている。行事では季節に合った物、誕生会の際には、入居者様ご本人の食べたい物、お好きな料理を出せる限り提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューが提供されており、栄養バランスは保たれている。十分な栄養、水分の確保がご自分で困難な方には、職員が付き添いが必要であれば介助を行い、バランス良く栄養を摂取して頂けるよう支援を行っている。食事量や水分量を記録することでご利用者に合った栄養量、水分量の管理を行っている。必要であれば管理栄養士や医療機関と連携を行える体制を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂けるよう、声かけしている。できる限り入居者様ご本人に行って頂き、最終確認をさせて頂いている。義歯を使用している方は、夜間帯にできる限りつけおき洗浄をさせて頂いている。口腔ケアを行うことにより誤嚥性肺炎の予防にも努めている。義歯の調整や口腔ケア、定期検査など必要に応じ、訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本ケア(水分、運動、食事)を心がけ、トイレでの排泄ができるよう支援している。又、可能な限り日中はおむつを使用せずトイレでの排泄ができるようすることで入居者様の人格の尊重とプライバシーの確保ができるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確保できるよう支援すると共に、便秘傾向の方に関しては、歩行等の運動を行う機会を持てるよう支援することで出来るだけ下剤に頼らない基本ケア(水分、運動、食事)を展開している。また、日常的に乳製品やオリゴ糖などの排便を誘発するものを提供している。看護職員が排便状況を把握し必要があれば対応を行い穏やかな生活を過ごせるよう支援を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望に沿い、入浴表を作成しているが、その日の体調や入居者様ご本人の希望により、曜日や時間帯の変更を行うなど、柔軟な対応に努めている。入浴が困難な場合には、清拭や足浴を行って頂き、身体の清潔を保つことに努めている。最低でも週2回の入浴ができるよう努める。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご希望に合わせて、休息時間を設けられるよう、対応している。また、夜間帯においては、居室の明るさや騒音、温度等にも配慮し、安眠できるよう努めている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容や用法、用量、副作用が明記された用紙をファイルに綴じ、全職員が確認できるようにしている。また、状態が変化した際は、訪問看護師へ相談をし調整を行い、早期受診できるよう医療機関との連携に努めている。また医療機関へ相談を行い減薬調整ができるよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動や歌という共通の要素を核とし、入居者様ごとの生活歴(職歴・趣味など)を基に役割作りに努めている。女性の入居者様が多く、盛り付け、食器拭き、洗濯物たたみといった家事を毎日の役割としてご利用者から声を発して頂けている。		

グループホーム ひまわりの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼかぼか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期には、近くを散歩したり外出を支援している。また、希望時には買い物や散歩を行えるよう支援に努めている。運営推進会議においても、希望や助言を頂くよう努めている。また、個別外出の計画もあり、入居者様ご本人・ご家族様のご希望に沿う行事も計画している。可能なご家族には、できる限り外出ができるよう、声を掛けさせて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の際や買い物活動の際に関しては、ご家族様や入居者様ご本人の希望がある際は、お小遣いを所持できるよう環境を整え、使用していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に、ご家族様へ電話をかけたたり、もらったりすることで安心して暮らして頂いている。また手紙でのやりとりができるよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営推進会議やアンケートなどでご家族様からも意見を頂き、検討する様努めている。また、視力が低下している方には特に配慮し分かりやすく視界に入るよう、ドアなどに場所や名前を記載している。装飾に関しては、季節感のあるものを入居者様と作成し、廊下等に飾り居心地良く過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に関しては、広さはないが、自由に使用して頂けるよう、日頃から入居者様やご家族様にお話している。また、居室にいる際は、無理に出てきて頂くような声は掛けないよう注意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等に関しては、使い慣れた物を使用して頂けるよう声を掛けている。また、自室内は、入居者様ご本人の塗り絵や作品、写真、誕生日カードなどを飾らせて頂き、居心地よく過ごせるよう、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具等に関しては、使い慣れた物を使用して頂けるよう声を掛けている。また、自室内は、ご自身の塗り絵や作品、写真、誕生日カードなどを飾らせて頂き、居心地よく過ごせるよう、支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームひまわりの郷

作成日：平成 31年 3月 14日

市町村受理日：平成 31年 3月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	フェイスシートの趣味や嗜好の情報が不十分。	利用者の意見や、職員が気付いた家族の意向を共有しケアに活かせる。	センター方式の「B-3」シートの活用などを行い、利用者様、ご家族の思いを記録し、スタッフ間で情報を共有し生活の質の向上を行う。	12ヶ月
2	35	災害発生時のマニュアルの整備が不十分である。また、各ケア場面における対応方法が不十分。	災害発生時、利用者ごとの避難方法を統一することで生命、身体の安全を確保できる。	災害関係のマニュアルの整備を行うと同時に、ケア別の対応方法についてミーティングを行う場を設け、話し合いマニュアル化を行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。